

旭

印刷を支え加工を活かす

経理部
取締役経理部長
やまぐちしょうぞう

山口省三

旭紙工株式会社で取締役経理部長として勤務されている山口省三さん。社会人経験が豊富な山口さんにお仕事の内容やご活躍の秘訣などをお聞きしました。



——現在どのようなお仕事をしているのですか。

簡単に言うと、会社の金庫番として資金をトータル的に管理しています。

2008年(平成20年)に中途入社しましたが、それ以前に30年ほど他社で経理関係の仕事をしてきました。サラリーマンとして勤務しているわけではなく、会社の業績を上向きにするため、結果を出すために仕事をしています。

今期は新しい工場の改修工事資金の調達完了し、ようやく稼働し始めたところです。数年前と比較すると、それまでは上昇傾向だった業績が今期は足踏み状態となっています。他に変わらず人手不足が主な要因です。仕事の依頼は多くそれを引き受けるだけのキャパシティもありますが、人手が足りずに工場をフル稼働させられず苦しんでいます。

——人手不足解消のための対策はしていますか。

会社のイメージを新卒の方にわかりやすく伝えるためのツールを整えています。社内報もその一つです。同時に、仕事とプライベートの両方を

充実させられるバランスの取り方を模索しています。また国内での採用に加え、海外からの実習生の採用に取り組んでいて、12年前からタイの実習生を採用しています。

それでも人手が足りていないので人材育成が難しく、現場に十分な人材が配置されるまでにはもう少し時間がかかるかもしれません。

——「活躍の秘訣は何でしょうか。

お金回りがきれいに整ってくる、同時に財務も整ってきます。それらを整えるためにはまず、必要な資金を呼び込まなければなりません。会社のために使えるお金を増やすことが大前提なのです。

私は、長く仕事を続けている中で得た知識や経験値を基に、銀行から必要な資金を借り入れるためのスキルを身につけることができました。決算を組むための経理の仕事と、財務に関する銀行折衝の両方のスキルを身につけている人は、なかなかいないのではないかと思います。

——これまでの辛い経験や、苦勞したエピソードをお教えてください。

挫折をして諦めた経験はありませんね。絶対に何か結果を残すまで投げ出しません。

確かにこの仕事には多くの手間や時間を要します。その上、ヒトの問題も絡んできます。そういった問題から逃げずにやり遂げるのは容易ではありません。しかし私は、社長から依頼を受けた時には、5分後には結果のビジョンが見えます。あとはそのビジョンを現実のものとするため、数か月以上の時間をかけてコツコツ頑張るだけです。

万一結果のビジョンが見えなかった時には、今以上に知識を増やすなど、最善の結果を出すために辛抱強く努力するのみです。その努力が自分の経験値となり、さらに後の仕事に活かすこともできます。私は30歳の頃からずっと「諦めないこと」を信念としてこの仕事を続けてきました。

——現場とのかかわりはありますか。

現場の担当者と直接話す機会はほとんどありません。ただ、幹部朝礼には毎日出席しています。そこで私が

述べた意見を、責任者が現場に伝えてくれています。現場担当からすると経理や財務関係の話は畑違いなので、なかなか私の意見を届けるのが難しいと感じることもあります。ですが、社長の方針で会社の概要については幹部の方々にしっかりと伝えるようにしています。「知らない」ということは、仕事をする上でマイナスに働く面もありますから。

——来期への抱負をお願いします

今期は新しい工場を立ち上げるにあたって出費が多くなり、返済の額も増加しました。それをきちんと支払っていきけるような会社の体制をつくるのが課題となります。

こういった課題を達成するためには、現場の責任者に今期以上に実績を上げてもらうことはもちろん、私の仕事としては銀行との折衝の窓口として、現在の会社の姿をわかりやすく理解してもらえよう資料作りをすることです。

長い目でみても、銀行などからの支援がないと企業の存続は難しいのが現状です。銀行とのつながりは、会社のためにも大切にしていかなければなりません。



▲経理部のみんなと一緒に

今後は自身の後継となる若手の育成にも力を入れなければ、という山口さん。まだまだ第一線での活躍が期待されます。

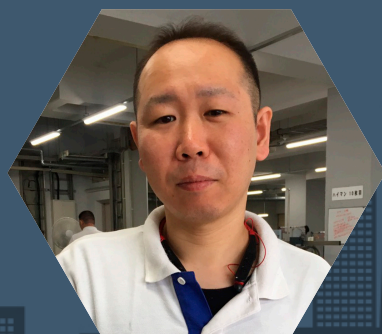
企業情報

- ◆創立年：1983年1月
- ※創業：1963年
- ◆年商：15億円
- ◆従業員数：200人

※2018年12月実績

The FOCUS

新工場 折部門 編



私が
紹介します

折部門 課長
寺山 幸作さん



業務内容

大きく分けて2つの業務があります。1つ目は、チラシの2つ折りなど折部門で完結する作業。2つ目は、中綴じや無線綴じの中身を折るなど、後工程に引き継ぐ作業です。折部門には23名が所属しており、社員が機械のセット、アルバイトの方々が実務を主に担当しています。



職場自慢

団結力が強いです。折部門は個人で行う作業が多いため、現状を把握するために適宜声掛けをするよう心掛けています。「今ちょっと遅れています」と伝えてくれれば、機械の稼働時間を延長したり、作業を交代したりとフォローに入ることができるので、各々の進捗状況はこまめに報告してもらっています。

仕事中に声を掛け合うだけでなく、休憩時間に他愛もない話をすることも多いです。年齢がバラバラなことに加え、半数近くが外国人社員・アルバイトのため、コミュニケーションは大切にしていますね。ベトナム人社員やタイ人研修生が戦力として働いてくれていますし、パートさんに助けてもらうことも多いです。皆さんには本当に感謝しています。



工夫していること

作業効率の改善に取り組んでいます。これは永遠の課題です(笑)。たとえば、デリバリー(製品が出てくる部分)に工夫をしたり、プレス機で製品を押さえたりなど、楽に仕事ができるよう試行錯誤しています。機械が止まると効率下がってしまうので、不良品が出ないセットを心掛ける、というのが1番重要です。もちろん今でも止まってしまうことはありますが、以前より頻度は低くなりました。

効率化にあたりミーティングなどは行っていないため、何か気付いたことがあれば個々に意見を出してもらっています。皆さん「前のセットでこうだったから、今度はこうしてみます」「次はこの機械でやらせてください」と積極的に発言してくれるので、徐々に改善が進んできました。

目下の課題はセットにかかる時間を短縮することです。忙しいときには1日で30台の機械をセットしなければならないため、各々のスキルを上げることが求められます。今は私と村上くんを中心として、教育に力を入れています。

折部門 活躍している社員

村上 裕一さん



です。仕事とプライベートでしっかりとメリハリをつけているところが良いですね。

長い間夜勤のリーダーを担当しています。安心して夜勤を任せられるのは彼だけです。機械をセットするスピードがずば抜けて速く、折部門ではナンバーワンです。豊富な経験を活かし、後輩指導も行っています。「もっと上を目指して欲しい」という気持ちから厳しく指導してくれているのですが、普段はとても明るい方です。

サンさん



日勤担当のベトナム人社員です。機械のセットなどの技術面でも、語学面でも、非常に飲み込みが早いです。今は難しい折作業も任せることができるようになり、当初と比べるとかなりスキルが上がったと感じます。性格は穏やかで、あまり感情を出さないタイプです。トラブルにも冷静に対処してくれるため、何かあれば真っ先に彼のところへ行く、という人も多いのではないかと思います。

思い出深いエピソード

アットマーク(売上を人数で割った数値)の目標を達成した際にいただける1万円を資金として、年に数回飲み会を開いています。声を掛けるとほぼ全員参加してくれるので、こういった場面でもチームワークの良さを感じますね。普段は無口な方も盛り上がり、和気あいあいと楽しんでいます。

今後の目標

不良品が出ないようセットに気を配ることです。折部門は他に比べて不良が多く出てしまう部門なので、特に気を付けたいと思っています。作業しやすい環境作りに努めますので、売上を回復させられるよう、皆さんにも協力していただけると嬉しいです。何か気付いたことがあれば、気軽に声を掛けてください!

